

群 教 セ	G05 - 04
	平 17.228集

合唱活動において、 自ら表現の工夫ができる生徒の育成

— 楽曲の記号・構成・歌詞をもとに歌い方を考える活動を取り入れて —

特別研修員 横手 憲生 (桐生市立広沢中学校)

《研究の概要》

本研究は、歌い方を考える活動を取り入れることにより、合唱活動において自ら表現の工夫ができる生徒を育成しようとするものである。具体的には、学習シートを用いて楽曲の記号・構成・歌詞をもとに一人一人が歌い方を考えた後で、グループで話し合い、最後は全体で発表し合い、クラスの合唱としてまとめていく。これらの活動を通して、生徒が自分の表現についての考えを深めながら合唱活動ができるようにした。

キーワード 【音楽—中 合唱 表現の工夫 考える活動】

I 主題設定の理由

音楽を表現する楽しさとは、自分の気持ちを表現する喜びや、自分の演奏を他の人に聴いてもらい、認めてもらったり、楽しんでもらったりする喜びなどであろう。音楽の授業では、合唱や器楽などの幅広い活動の中から、音楽を表現する楽しさを感じ取れるようにしたい。また、表現を高めていく喜びを生徒に知ってほしいと思う。

そのためには、表現の工夫が必要となってくる。表現の工夫のためには、曲想を感じ取り、そこからイメージをもった後、演奏方法を考えることが大切である。また、自分だけの意見ではなく友達の見聞も聞きながら、考えることができるようにしたい。その事について合唱活動の面から考えてみた。

合唱活動は、様々な学校行事とも絡み、音楽科では、中心的な役割を担う。その指導は大きく分けて「①自分のパートの旋律を覚える」「②他のパートと合わせる」「③表現を工夫する」の3段階からなる。それらの段階の中で、音楽表現の楽しさを強く味わえるのは③の場面であろう。そこでは本来、生徒一人一人が曲想から、曲に対してのイメージをもち、その事から強弱の変化・速度の変化・声の出し方などの歌い方を考えることで、音楽表現の豊かな広がりを体験することができる場面である。

しかし、実際の授業の中では、生徒が自ら表現

の工夫について考える時間を確保できず、教師主導の活動となってしまうがちである。教師の発問などから表現方法を考えるが、教師の発問の意図を考える作業にもなりかねない。時としてそれは、生徒にとって受け身の姿勢の表現活動になってしまう。その結果、「言われてできる」生徒が大部分である。そして、表現について意識の低いまま、新しい曲に出会った生徒は、過去に学習した表現の工夫を応用できず、教師が再び教えることになる。

生徒が進んで曲想を感じ取り、自ら表現を工夫する能力を養うためにはどうしたらよいか考えた。そこで、曲想を生み出す要素の中でも、大きく表現の工夫とかがかわってくる、楽曲の記号・構成・歌詞に着目した。生徒が作曲者・作詞者の意図も感じながら、歌い方について考え、友達の考えと比較して深めていく。このような経験を積み重ねることで、新しい曲に出会った時にも、進んで曲想を感受し、イメージをもち、自ら表現の工夫に取り組めるようになるのではないだろうか。そして、自分で歌い方を考え、喜びを味わうことは、生徒に満足感や充実感を与え、表現意欲を高めることになるだろう。

以上のことから、合唱活動において、楽曲の記号・構成・歌詞をもとに歌い方を考える活動を取り入れることにより、自ら表現を工夫できる生徒を育成することができると考え、本題材を設定した。

II 研究のねらい

合唱活動において、自ら表現の工夫ができる生徒を育成するために、楽曲の記号・構成・歌詞をもとに歌い方を考える活動を取り入れることの有効性を、実践を通して明らかにする。

III 研究の見通し

- 1 追求1の過程では、一人一人が分担した範囲について、学習シートを活用することにより、楽曲の記号・構成・歌詞をもとに、表現の工夫について考えることができるであろう。
- 2 追求2の過程では、一人一人で考えた表現の工夫について、同じ範囲を学習した生徒同士でグループを作り、考えを出し合う活動することにより、個人では考えられなかったことや多様なとらえ方に気付く、考えを深めることができるであろう。
- 3 まとめの過程では、グループ毎に考えたことを演奏と共に発表し合い、自分が考えたところ以外の表現の工夫について分かることにより、曲全体の表現に対する考えを深めて演奏しようとするであろう。

IV 研究の内容と方法

1 研究の内容

(1) 合唱活動における表現の工夫について

合唱活動において、自分のパートの旋律を覚えたり、他のパートと合わせたりした後、表現の工夫をおこなう方法について、次のように考えた。

まずは、曲の特徴や雰囲気をつかんだり、記号、構成、歌詞などの意味を理解したりして、曲想を感じ取り、イメージをもつ。次に、一人一人がそのことをもとに自分の思いをもちながら、強弱や速度の変化、声の出し方など、どこをどのように歌ったらよいか歌い方を考える。最後に、一人一人が考えたことを出し合い、それを話し合いでまとめて、考えたことを生かして合唱する。

(2) 「自ら表現の工夫ができる生徒」とは

自ら表現の工夫ができる生徒とは、表現の工夫について、方法を理解し、自分から取り組んだり、自分の考えや思いをもったりできる生徒と考え

た。

また、生徒一人一人が、自分の考えで表現の工夫を進められたり、学習の流れを分かたりするように、学習シートを作成した。この学習シートを活用することにより、学習の内容がよく分かり、表現の工夫についての自分の考えを出しやすくなると考えた。

(3) 「楽曲の記号・構成・歌詞をもとに歌い方を考える活動」について

表現の工夫について考えるためには、根拠となる曲想の感受が必要である。本研究では合唱活動に視点をあて、曲想を生み出す要素として特に「楽曲の記号」・「構成」・「歌詞」の3つが重要であると考えた。

「楽曲の記号」では、作曲者がそこに求めている強弱や速度などを考えることができる（学習シートの項目2）。「構成」からは全体の中のある部分の意味や、他のパートと自分のパートとのかかわり、伴奏からのイメージなどを考えることができる（学習シートの項目3）。「歌詞」からはそこに込められた思いや情景を考えることができる（学習シートの項目4）。そのようにして、曲の特徴や雰囲気をつかみ、一人一人が思いをもち、強弱や速度の変化、声の出し方などを考えたあと、みんなで話し合いや発表をすることで、考えを深めることができる（学習シートの項目5、6）。

以上のような一連の流れをまとめたものが図1の研究イメージ図である。これらの流れを歌い方を考える活動と考えた。

2 研究の方法

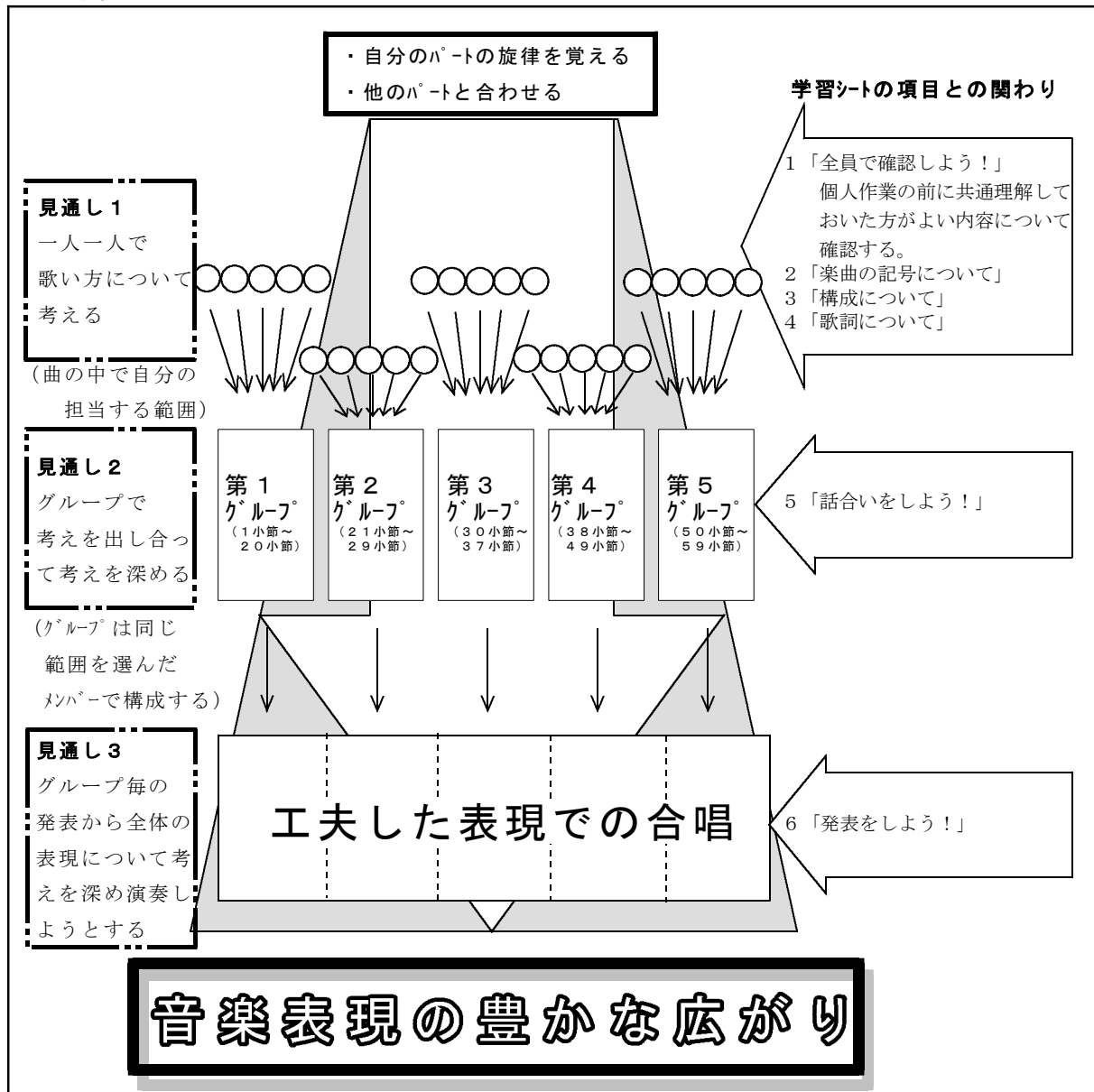
(1) 授業実践計画

対象	桐生市立広沢中学校 1年2組（男子19名、女子13名）
題材名	表現の工夫を生かした合唱をしよう
期間	9月～10月 全9時間
抽出生徒	A子：歌うことが好きで授業に対しても積極的であるが、表現の工夫については自分から進んではあまり意識をしていない。本研究を進める中で表現の工夫について自ら取り組めるようにしたい。 B男：歌うことに苦手意識があり、音楽の授業に対してはどちらかというと消極的である。本研究を進める中で表

現することの楽しさについてふれ、音楽や歌うことの楽しさを味わい、自信

をもって取り組めるようにしたい。

図1 研究イメージ図



(2) 検証計画

検証項目	検証の視点	検証の方法
見通し1	一人一人が合唱曲「夜汽車」を五つに分けたうちの一つの範囲を選択し、学習シートを活用することにより、楽曲の記号・構成・歌詞をもとに、歌い方について考えることができるであろう。	観察 楽譜への記述
見通し2	一人一人で作った歌い方について、同じ範囲を学習した生徒同士でグループを作り、付箋紙などを用いて考えを出し合う活動を行うことにより、合唱曲「夜汽車」について個人では考えられなかったことや多様なとらえ方に気づき、考えを深めることができるであろう。	観察 楽譜への記述
見通し3	グループ毎に考えたことを演奏と共に発表しあい、自分が考えた範囲以外の歌い方を分かり、互いの表現のよさに気付くことにより、曲全体の表現に対する考えを深めて演奏しようとするであろう。	発表 観察 楽譜への記述

V 研究の展開

1 題材及び題材の考察

<p>題材 表現の工夫を生かした合唱をしよう</p> <p>考察：本題材は、合唱活動において、自ら表現の工夫をし、主体的に合唱できるようになることをねらっている。活動内容は、まず、パート毎に旋律を覚え、他のパートと合わせる。次に、楽曲の記号・構成・歌詞をもとに歌い方を一人一人が考えてから、グループや全体で考え、工夫できるようにした。そのことにより、生徒が主体的に表現の工夫に取り組むことができると考えた。その後、表現の工夫を生かして歌うために必要な練習を取り入れた。</p> <p>教材について：本研究では、合唱曲「夜汽車」（金沢智恵子 作詞／橋本祥路 作曲）を教材として取り上げた。この曲は、記号が必要最低限で書かれていること、場面が分けられていて分かりやすい構成となっていること、生徒の気持ちに添う歌詞であること、などから歌い方を考えやすい。第一学年で表現の工夫について学ぶために、生徒が取り組みやすい作品であると考えた。</p>

2 目標及び評価規準

目標	楽曲の記号・構成・歌詞をもとに自ら歌い方を考えたり、友達の考えを自分の表現の工夫に生かしたりしながら、意欲的に合唱することができる。		
	評価の観点		
	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽的な感受や表現の工夫	ウ 表現の技能
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> パート練習や全体合唱に意欲的に取り組んでいる。 楽曲の記号・構成・歌詞をもとに歌い方を考えることに意欲的である。 	<ul style="list-style-type: none"> 楽曲の記号・構成・歌詞をもとに歌い方を考えている。 よさを聴き取って、友達の考えを自分の表現に生かしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の分担するパートの音程、リズムを正しく歌うことができる。 考えた歌い方に気を付けて表現する技能を身に付けている。

3 指導と評価の計画(全9時間予定)

過程	時間	○ねらい ・学習活動	支援及び指導上の留意点	○おおむね満足できる具体的評価規準 【評価方法】 ☆十分満足できると判断できる状況例
課題をとらえる	1 3	<ul style="list-style-type: none"> パート毎に旋律を覚えたり、他のパートと合わせたりして、「夜汽車」を一通り歌えるようにする。 リーダーを中心にパート練習で旋律を覚える。 二つのパートずつや全部のパートであわせる。 	<ul style="list-style-type: none"> パート練習の仕方については教師による模範を見せることにより、リーダーや周りの人の動きについてイメージがつかめるようにする。 パートリーダーを中心に生徒主体で活動できるよう支援していくが、生徒が旋律を弾くことができないなど、状況に応じては教師が積極的にかかわり、支援をしていく。 各時間の後半には合唱する場面を作ることで、他のパートにつられずに歌うことができるか確認し、曲の全体像についてとらえることができるようにする。 	<p>観点ア</p> <p>○楽曲に興味をもち、パート練習や全体合唱に意欲的に参加している。【観察】</p> <p>☆積極的に発言したり、歌ったりしている。</p> <p>観点ウ</p> <p>○自分の分担するパートの音程、リズムを正しく歌うことができる。【観察】</p> <p>☆同じパートの友達の声や他のパートを聴きながら、自分の旋律を他のパートにつられずに歌うことができる。</p>
	4	<ul style="list-style-type: none"> 表現の工夫についての学習内容を知る。 学習シートの使い方を教師の例示をもとに知る。 「夜汽車」のどの部分について歌い方を考えるか決める。 共通事項について話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習シートの使い方について理解しやすいように例示を示して説明する。 学習範囲は曲想が変わるところで教師が区切り、グループ分けをする。 グループ分けは生徒の希望をききつつ、各パートからの人数が同じくらいになるよう調整しながら教師が行う。 全員で押さえておかなければならないポイントについて話し合い、共通理解ができるようにする。 	<p>観点ア</p> <p>○課題（楽曲のもつ記号・構成・歌詞をもとに歌い方の工夫をする）を理解し、そのことについて意欲的に取り組むことができる。【観察・楽譜への記述（学習シートの項目1について）】</p> <p>☆自分の考えを楽譜に十分に書きこんでいる。</p>
追求1		<ul style="list-style-type: none"> 一人一人が学習シートを使い、楽曲の記号・構成・歌詞をもとに、歌い方について考える。 <p>(見通し1)</p>	<ul style="list-style-type: none"> よく考えられている生徒の工夫を紹介することで、他の生徒がヒントを得て、考えが進むようにする。 やり方がよく分からない生徒や歌い方について考えられない生徒については個々に助言する。 	<p>観点イ</p> <p>○楽曲の記号・構成・歌詞をもとに歌い方を考えている。【観察・楽譜への記述（学習シートの項目2～4について）】</p> <p>☆歌い方について内容も含め十分な記述が楽譜に書かれている。</p>

<p>追求 2</p>	<p>5</p> <p>○前時に一人一人で考えた歌い方について同じ範囲を学習した生徒同士でグループを作り、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> グループとしてどのように歌うか考える。 話し合いをしていて、歌い方について付け足しや訂正する箇所については赤ペンで記入する。(見通し2) <p>○発表に向けて演奏の練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> グループ毎に練習をする。 必要がある場合にはさらに歌い方について考え、訂正・追加等おこなう。 	<ul style="list-style-type: none"> 付箋紙に自分の考えを書いて、発表用の楽譜に貼れるようにすることにより、全員の考えが出しやすいようにする。 考え方が大きく食い違っているような場合には教師も一緒に考え、内容によっては両方の意見を考慮しながら具体的な歌い方について考え、生徒一人一人の意見を尊重できるようにする。 付け足しや訂正する箇所を赤ペンで記入し、歌い方の付け足しや訂正を意識することにより、友達の考えや自分の考えの変化を大切にできるようにする。 <p>○歌いながらどのように歌い方を考えたのか確認をすることにより、生徒が自分たちの考え方について見直すことができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分たちが考えたとおりに表現できてないグループについては技術的な助言をする。 	<p>観点イ</p> <p>○話し合う中で、さらに曲想を感じ取り、その事をもとに歌い方について、考えを深めている。【観察・楽譜への記述】</p> <p>☆話し合いに積極的に参加し、他の人の意見も尊重しながら自分の考えを深めたことが楽譜に十分に記述されている。</p> <p>観点ウ</p> <p>○強弱などの考えた歌い方を生かして、豊かに表現できる。【発表・観察】</p> <p>☆考えた点が十分に伝わるように練習できる。</p>
<p>まとめ</p>	<p>6</p> <p>○グループ毎に考えたことを発表し合い、それを生かした演奏を聴き合うことで、自分が考えた範囲以外の歌い方を分かる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 発表用の楽譜を使い、言葉で説明する。 歌で実際に歌う。 他のグループの発表を聴いて分かったことや気付いたことを楽譜に、よかった点や疑問点等を楽譜の脇に書き込む。 よかった点や疑問に思った点などを発表し合う。(見通し3) 	<ul style="list-style-type: none"> 言葉での発表ではOHCなどの機器を用いて分かりやすい発表ができるようにする。 言葉のみの発表でなく、演奏しながら表現を伝えることができるようにする。 他のグループの演奏を聴いて、自分が考えた範囲以外の歌い方を分かることにより、曲全体について考えを深め、表現の工夫ができるようにする。 聴いている側はよかった点や疑問点等について楽譜に書き込むと共に、それを発表し合うことによりお互いで評価ができるようにする。そのことで、がんばったことが認められた達成感などを感じられるようにする。 	<p>観点ウ</p> <p>○強弱などの考えた歌い方を生かして、豊かに表現できる。【発表・観察】</p> <p>☆考えた点が十分に伝わるように発表できる。</p> <p>観点ア</p> <p>○他のグループのよさを聴き取って友達の考えを自分の表現に生かそうとしている。【観察・楽譜への記述】</p> <p>☆他のグループのよさについて十分な記述が楽譜に書かれている。</p>
<p>7 5 9</p>	<p>○クラス全体で仕上げの合唱を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> パートに分かれて考えた歌い方について練習をする。 全体で合唱をおこない、録音をしながら歌い方について振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> 考えた歌い方について復習し、確認したことをもとにパート練習をしたり、必要に応じて教師が助言したりすることにより、意識や演奏技能が高まるようにする。 全体での合唱を録音をして振り返ることにより、客観的に自分たちの演奏を聴き、よい点や直した方がよい点について考えることができるようにする。 	<p>観点ウ</p> <p>○強弱などの考えた歌い方を生かして、豊かに表現できる。【観察】</p> <p>☆考えた歌い方が十分に伝わるように演奏できる。</p>

VI 研究の結果と考察

1 一人一人が合唱曲「夜汽車」を五つに分けたうちの一つの範囲を選択し、学習シートを活用することは、楽曲の記号・構成・歌詞をもとに、歌い方について考えるために有効であったか

この時間の前までの学習で、各パートの旋律を覚えて合唱したり、共通事項を学習シートの項目1をもとに全員で共通理解したことにより、「夜汽車」の全体的なイメージを全員でつかむことができた。

本時に入り、見通し1の内容を説明すると、生徒は学習シートに書かれている手順をもとにしながら、自分の選んだ範囲について、どのような理由でどのように歌いたいかを考え楽譜に記述していった。見通し2でのグループでの話し合いに向けて、一人一人が真剣に取り組んでいた。

歌詞から一番先に考える生徒が多く、大切だと思う言葉に○を付けた後に理由と歌い方を書いた。「『あきらめたからじゃない』はあきらめない気持ちを表すために力強く歌いたい」「『朝日』は輝く声で、しっかりと歌う」など、書き進める

ことができた。

構成については、学習シートの問いかけから、各場面の役割や次の場面とのつながりを考えた。「過去を振り返って今からがんばるぞという場面なので、やるぞという気持ちを込めて歌う」「次の場面につなげるために最後までしっかりと音を伸ばす」などと書き進めることができた。また、伴奏について着目し、「思いを振り返る場面なので伴奏はやわらかく、なめらかに」と書いたり、女声と男声のバランスに着目し「男子がメロディーなので大きく歌う。女子は控えめに。」などと書いたりする生徒もいた。

記号については、記号に○を付け意味を書くことまでは、前時に行った共通事項の確認によりスムーズに進んだ。しかし、どうしてそのような歌い方をするのかという理由が書けずに、「フォルテで歌うところだから強く歌う」などと書く生徒もいた。そこで、『探すために』は探すという決意を表すので強く歌う」と書いている生徒の例を紹介すると、他の生徒も少しずつではあるが理由を書き出すことができた。

抽出生徒のA子は、歌いはじめの部分について、まず、「長調だから明るく歌う」と記号に着目して書いた。その後、構成にも着目すると「はじめの部分なので、汽車がやってきたという明るい雰囲気でも歌う」とさらに理由をしっかりと書くことができた。また、歌詞に着目して、『夜汽車に乗った』の歌詞が2回でてくるということは作者が強調してほしいからなので、2回目はもっと強調して、しっかりと『『想い』は心の中があらわれる言葉だから丁寧に歌いたい」と詳しく書き、歌い方について考えることができるようになってきた。

抽出生徒B男は、最初はどうのように書いてよいのか戸惑っていたが、教師が他の生徒の例『『暗い』の所は悲しい感じで歌う』などを紹介した後は、歌詞に着目をして『『想い』なので大事に、気持ちを込めて歌いたい』や資料1などのように記入できた。このように、歌詞からその場面のイメージをもち、それをもとに歌い方を考えていこうとする様子が見られた。

一曲を場面ごとに五つに分け、一人一人がそのうちの一つの範囲を選択して作業を進めたことで、それぞれの場面に集中しながら比較的短時間で学習を進めることができた。

資料1 B男の楽譜への記述



以上のことから一人一人が「夜汽車」を五つに分けたうちの一つを選択し、学習シートを活用することは、楽曲の記号・構成・歌詞をもとに、歌い方について考えるために有効であった。

2 一人一人で考えた歌い方について、同じ範囲を学習した生徒同士でグループを作り、付箋紙などを用いて考えを出し合う活動をするのは、合唱曲「夜汽車」について個人では考えられなかったことや多様なとらえ方に気づき、考えを深めることに有効であったか

グループに分かれると、最初に自分の考えを付箋紙に書き、発表用の拡大楽譜に貼り付けた。すると、同じ意見や考えの相違などについて分かりやすく知ることができた(資料2)。

資料2 付箋紙を用い、意見交換中の楽譜



その後、出された意見について、話し合いをはじめた。歌い方を考えることに慣れていないために、自分の考えていた内容に自信をもてず、発表を躊躇していた生徒もいた。しかし、他の生徒の同じような意見を聞くことで、「この考え方でいいんだ」と安心すると、活発に発言できるようになった。

話し合いの中では「明るく歌う」と「はっきり歌う」は「明るくはっきりと歌う」など似ている意見をまとめていった。事前に学習シートの項目1で共通理解をはかり、みんなで曲に対しての大きなイメージを作っておいたため、この場面では、

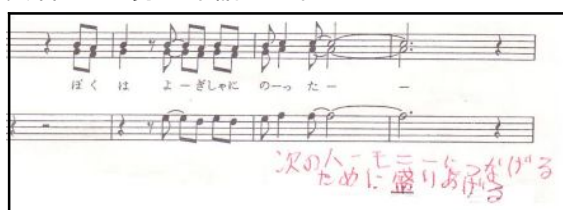
細かなイメージを話し合いながら深めていくことができた。

そして、まとまった考えや新しい考えを発表用の拡大楽譜に赤ペンで記入することにより、歌い方について確認しながらとらえることができるようになった。

A子はグループの中でも中心的存在として活動していた。友達の発言を聞き、付箋紙を用いて、まとめていった。出だしの部分では一人で考えた時は、記号に着目して「長調だから明るく歌う」や、構成に着目して「はじめの部分なので、汽車がやってきたという明るい雰囲気」に歌う」と書いたが、B男の意見を聞いて歌詞についても考え、「『夢』だから明るく」と深めることができた。また、「僕は」の歌詞を女声と男声が追いかけるように歌うところは、グループで試しているうちに「こだまみたいに」歌おうと考えることができた。

B男は話し合いの中ではどちらかというと発言は少なかった。しかし、話し合っていく中で考えを深め、楽譜の中であまり記入がなかった旋律にも、「思いが伝わるように大きく歌う」や資料3のように新たに書くことができた。授業後のアンケートでは「みんなで考えることでいろいろな意見があって、一つの曲でもこんなに意見が出せるんだと思った」と書いており、話し合いに前向きに取り組んでいたことが伺える。

資料3 B男の楽譜への記述



以上のことから、グループで考えを出し合う活動をするには考えを深めるために有効であったと考えられる。

3 グループ毎に考えたことを演奏と共に発表しあい、自分が考えた範囲以外の歌い方を分かり、互いの表現のよさに気付くことは、曲全体の表現に対する考えを深めて演奏しようとするのに有効であったか

グループ毎に自分たちがまとめた考えを発表した。OHCを使って発表することで聞いている生

徒に分かりやすく説明できた（資料4）。

資料4 OHCを使い発表する様子



聞いている生徒は、発表された内容を自分の楽譜に赤で書いた。また、疑問に思った点やよいと思った点について楽譜の脇に書き込んでいった。

説明が終わると、質問やよかった点が話し合われた。「特に歌い方について説明のなかったメロディーはどのように歌えばよいのですか」「女子の歌い方は分かったけど、男子はどのように歌えばよいですか」などの質問が出された。それについて「…と同じように歌ってください」「女子の声できこえなくならないよう、少し大きめで歌ってください」などと答えていった。よい点については「歌詞の意味を生かして考えているところがよかった」「どうしてそのように演奏するのがよく分かった」「次のグループとの関係も考えてあるところがよかったと思う」などの意見が出てきた。

その後でグループ毎に合唱を演奏し、実際に歌うとどのようになるかを表現した。

A子は他のグループの発表について「詞のこと、構成のこと、記号のことの三つが書けてよかった」とよかったところを指摘した。このことから、A子自身の中にそれらのことを意識する気持ちが高まってきていることが分かった。また、授業後のアンケートでは「多くの意見が聞けて面白かった。これらの意見や思いを演奏に生かしていきたい。」と書くことができた。

B男は他のグループの発表について「伴奏の所も書けていてすごかった」「理由がしっかり書けてよかった」「次のことも考えて記号のことも書けてよかった」と発言した。後で教師が「発表しあったことは自分の歌に役立ちそうかな？」とたずねると「自分も他のグループが考えてくれ

たように歌ってみたい」と答えた。その後の合唱練習では「『夢』のところをもっと明るく歌おうよ」など歌い方について意見をいう場面も見られ、以前よりも積極的に取り組んでいる様子が伺えた。

以上のことからグループで考えを発表し合い、歌い方を分かり、表現のよさに気付くことは考えを深めて演奏しようとすることに有効であったと考えられる。

Ⅶ 研究のまとめと今後の課題

- 学習シートを活用して、楽曲の記号・構成・歌詞を調べることは、歌い方について考えるためのポイントを生徒が意識するために非常に有効であった。また、歌い方をグループや全体で話し合うことで、友達が多様な考えに気付くことができた。そのことにより、一人一人の考えを深め、表現する意欲へと結び付けることができた。
- 本研究後の授業では、合唱練習への取組に変化が見られた。音程やリズム・姿勢だけではなく、表現について「そこはもっと明るい声で」「今の歌い方では『暗い』感じが出ないよ」など活発に生徒同士で意見が出し合えるようになってきた。また、授業後の感想には「今までは、先生が説明したことだけを注意して歌っていたけれど、今回は自分たちで考えた分、楽しく歌えた。だから、この学習をまたやりたいと思った。」「自分たちの意見をまとめ、発表し、みんなの意見を聞いて、私達の曲ができたみたいだった。前よりも一生懸命歌えるようになりました。」などの意見が多く書かれていた。自ら表現を考えたことによって、自分たちの曲をみんなで歌おうとする意欲をもち、主体的に取り組むことができるようになってきた。
- 合唱だけではなく器楽や創作など他の領域でも、表現の工夫について考える活動を積み重ねていくことが重要であると感じた。
- 本研究では、第一学年での実践であったが、このような歌い方について考える活動を、学年が進むにつれて発展させた形で取り入れることを考え、さらに研究を深めていきたい。

〈参考文献〉

- ・川池 聡 著 『小学校・中学校 新しい音楽

科の指導と評価』 教育芸術社 (2003)

- ・中学校音楽科教育実践研究会 編改訂 『中学校学習指導要領の展開 音楽科』 明治図書 (2000)
- ・『ソナーレ 音楽科教育実践講座 第11巻 授業の工夫 (2)』 ニチブン (1992)